

授業科目名 (英文名)	地球環境経済論 (経済学部・専門教育科目) (Global Environmental Economics)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	新澤 秀則	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	地球規模の環境問題について経済学の知識と思考力を身につけ、自然科学的事象がもたらす経済的関係を把握分析する能力を身につけ、国際的な制度設計について考えることができるような水準まで到達することを目標とする。		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 経済学として地球規模の環境問題をどのようにとらえるか。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。地球環境保全のためには、いかなるしくみをつくるべきか。さまざまなアクターがどのように貢献できるのか。 講義中に、さまざまな質問を行う。また練習問題の解答を求める。調査、英文和訳、データ収集などのレポート課題を課す。提出されたレポートの報告と講評の機会を設ける。</p> <p>講義計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 地球規模の環境問題 (外部性、権利、類型、特殊性) 3 合意形成の経済学 (囚人のジレンマゲーム、協力) 4 ~ 5 ゲーム実習 6 地球環境保全の取り組み 7 地球環境保全の原則 (リオ宣言、他) 8 条約・議定書の内容 9 地球環境問題にかかわるアクター 10 EUの環境政策 11 生物多様性の保全 12 森林保全、砂漠化 13 酸性雨、国際河川の汚染 14 貿易と環境 15 パーゼル条約、リサイクルの国際市場 16 途上国の環境、開発援助と環境 17 地球環境ファシリティ、オゾン層の保護 18 ~ 23 地球温暖化 (原因と影響、国際的取り組み、気候変動枠組条約、京都議定書、京都メカニズム、京都議定書の問題点、パリ協定、目標の決定、緩和と適応、日本の対応、欧州連合の対応) 24 世界遺産、海洋プラスチック汚染 25 地球環境と自治体、NGOによる地球環境保全 26 安全保障問題としての資源環境問題 27 ~ 30 レポート報告と講評 (実際には、各レポートの締切ごとに分けて行う。) 31 期末試験 		
テキスト	履修者数が多い場合、冊子を販売する。少ない場合は、講義のウェブサイト以前年度の配布資料を掲示し、講義時に最新版を配付する。映像資料、英語教材、データ教材も利用する。		
参考文献	テキストあるいは配付資料に記載する。		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準 関連する経済学の基礎概念を理解し、それをを用いて地球規模の環境問題の把握が十分できるようになり、地球規模の環境問題への国際的取組の状況について十分理解できた者に、単位を授与する。 英語の教材を用いるので、英語の読解力も評価に加え、データ教材も用いるので、データ分析力も評価する。</p> <p>成績評価の方法</p>		

	平常点50%と期末試験50%で評価する。平常点は、発言、ゲームへの参加、レポートとその報告などによる。
履修上の注意・履修要件	<p>この講義は、環境経済学の応用科目です。 英語資料、英語映像を使うことがあります。理解できるように、フォローアップを行います。</p> <p>クラブやサークル活動による欠席に特別な配慮はしません。 テキストははじめの数回の講義のうちに受け取ること。 テキストあるいはウェブサイトに掲示した配布資料にあらかじめ目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。講義で使用したスライドは、講義後にウェブサイトに掲示するので、復習すること。</p>
実践的教育	該当しない。
備考	講義のウェブページも参照のこと。{ http://earth.eco.coocan.jp/GlobalEnvEcon.html }